

平成29年3月 国見町教育委員会 会議録

- 1、召集日時 平成29年3月23日(木) 午前11時10分
- 2、召集場所 国見町役場 小会議室(2階)
- 3、議席指定 1番委員 石川 博利
2番委員 志村 裕美
3番委員 高橋 幸子
4番委員 赤坂 正行
5番委員 岡崎 忠昭
- 4、議事録書名人 1番委員 石川博利委員 2番委員 志村裕美委員
- 5、欠席委員 なし
- 6、説明のため出席

教育次長兼学校教育課長	引地 由則
幼児教育課長	中田 利枝
生涯学習課長	羽根 洋一
学校教育課指導主事	宍戸 正幸

- 7、書 記 学校教育課主任主査兼学校教育係長 黒澤敦子
- 8、開 会 午前11時10分 ※小学校卒業式後に開催
- 9、議題の上程

○議案第5号 平成28年度末教職員人事について
(事務局説明)

高橋議長：承認してよいか。(異議なしの声)

高橋議長：議案第5号は承認された。

○議案第6号 国見町保育所の管理及び運営に関する規則の一部を改正する規則について
(事務局説明)

高橋議長：規則の制定について承認してよいか。(異議なしの声)

高橋議長：議案第6号は承認された。

○議案第7号 国見町教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の制定について
(事務局説明)

石川委員：第3条の課長等とは、だれを指すのか。

引地次長：課長が専決するが、決裁のなかでは課長と係長を含め課長等とした。

高橋議長：規則の制定について承認してよいか。(異議なしの声)

高橋議長：議案第7号は承認された。

○議案第8号 国見町教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について
(事務局説明)

高橋議長：生涯学習課から1名減るのか。

羽根課長：内示では生涯学習係が1名増える。文化財関係の業務は町部局のまちづくり交流課で行い、

文化財担当が業務とともに異動する。

高橋議長：規則の制定について承認してよいか。（異議なしの声）

高橋議長：議案第8号は承認された。

○議案第9号 町長の権限に属する事務の委任及び補助執行に関する規則の一部を改正する規則について

（事務局説明）

高橋議長：9項を削るということか。

羽根課長：文化財センターは町部局となることから文化財センターについて削除する。

高橋議長：文化財センターの使用料はどうなるのか。

羽根課長：目的外は使用料を徴収する。

志村委員：あつかし歴史館の使用申請は今までと変わらないか。

羽根課長：あつかし歴史館でも役場でも使用申請を受け付ける。

高橋議長：規則の制定について承認してよいか。（異議なしの声）

高橋議長：議案第9号は承認された。

10、教育長事務報告

岡崎教育長：3月議会一般質問で県学力テスト、全国学力テストについて質問があった。予算議案の承認のなかで、部活動の指導を学校職員の改正がありその質問があった。部活動の支援を進めていく。来年度の事業いじめ対策のQ-Uテストについて質問があった。Q-Uテストは、人間関係、悩み調査のアンケートである。ソフトスポ少の卒団式に参加した。多くの方に見守られ子ども達が育ててもらっていると感じた。

12、各課からの報告

学校教育課：離任式 3月28日午前11時30分から役場大会議室。

着任式 4月3日午後1時30分から 役場大会議室

入学式 4月6日 小学校午前10時、中学校午後1時30分

教育委員会 4月6日、町職員異動紹介について

幼児教育課：藤田保育所入所式 4月5日 午前10時

くにみ幼稚園入園式 4月7日 午前9時30分

屋内遊び場「くにみもたん広場」の利用状況について

生涯学習課：観月台文化センター管理運営委員会について

国見町子ども読書活動推進計画の一部改正について

「福島うちどくネットワーク」について

文化センターホールコンサート事業

・第4回復興・絆 魂の響き 和楽器フェステバル

・能楽のススメ in 国見 演目羽衣

・大山加奈バレーボール教室及び講演会

高橋議長：要望として、うち読の計画を進めるにあたり定期的に読書活動の行きつく先を提案してほしい。例えば、読書感想文発表会のような。家で本を何冊読みましょうでは、量を読むことが

目的ではないと思うので、今やっているショートショート創作文のように読んだ上で創作するなど一連につながる。

岡崎教育長：今の段階でいうと、8月6日に読書フォーラムを企画している。そのなかで子ども司書やうち読などをアウトプットしたい。読書フォーラムは毎年できればよいと考えている。

高橋議長：関わっている方の意見交換やパネルディスカッション、講演会で終わることなく、できれば子ども達が本を読んで感情が豊かになったとか本はいいなと感じるフォーラムにしてほしい。

石川委員：福島うちどくネットワーク設立準備会を開催したとのことだが、各町からどのような方が集まり、何人参加したのか。

岡崎教育長：福島県にはネットワークがなかったので、国見町でうち読を始めて3年目になり、広く周知もせず、とりあえず立ち上がったところ。今のところ正式会員は30数名で国見町教育委員会と二本松市教育委員会が中心になり進めており、まだまだこれからの組織である。会員は図書館や行政に関わっている人ではなく、個人や団体でも入れるオープンな組織、ネットワークにしていく。国見町ではお母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃんなどに入って広めていただき、行政主導ではない組織にしたい。

志村委員：ネットワークを通して、それぞれが読書推進の意見を持ち寄り本の紹介というか、幼稚園、小中学校などの子ども達の学校の活動に反映されるような形になるとよい。いろんな人が入ったなかでどのような活動を進めていくのか。

岡崎教育長：行政型でないというのは、ネットワークにいろんな立場や組織の人が入っていくなかで軌道にのれば、ネットワーク独自の活動をしていきたいと思いますとこれから進めていく。今は、うち読を取り組んでいる所にネットワークに入ってもらいどうしていくか相談を始めたところ。年1回の読書フォーラムは、今年は国見町で実施し、その活動をネットワーク主催にして読書フォーラムを実施し国見町でコーディネートしていければと思っている。国見町は保育所、幼稚園、小学校、中学校でそれぞれ取り組んでいるので、幼稚園、小学校では浸透してきており、発展途上型のネットワークととらえていただければ。

高橋議長：団体、学校、地区で取り組んでいる成果がモデルとしてみえるようにやってほしい。

志村委員：中学生は難しいと思うが保育所、幼稚園の子や保護者を取り込んで、そこにおじいちゃん、おばあちゃんもいて、小さい子に成果が現れてくると感じる。

石川委員：団体でも個人でも、例えば幼稚園から始め長期的に続けることで、取組みで良いことを情報発信できばと思う。

岡崎教育長：子ども司書講座は今年2期目が終わったが、終了した子どもらの活動と一体化させて、中学校高校は部活動が忙しく読書しなくなるが、本を読まなくていいことではないので、量ではなく手元に置く本を持っていてもいいし、子どもの意識改革をこれから徐々にやっていく。

高橋議長：それぞれのPTAを巻き込んで、子どもではなくおじいちゃん、おばあちゃんのうち読を一本柱で進めてほしい。大人が読んで伝えないと子ども達は家庭で本を読まない。

岡崎教育長：学校である程度、強制的にうち読を進めているのは、読書離れの親世代なので、うちの人、親も巻き込む主旨が根底にある。101冊の本がある家庭を親が目指すと子どもが手に取って本を読むし、親が揃えた本を親も興味を持つことを紹介しながら進めていければ。

高橋議長：伊達市はメンバーに入っているのか。

岡崎教育長：学校の先生が入っている。

高橋議長：伊達市が本の交換会をやり大盛況だった。またやってほしいと子どもも大人も言っていた。

そこで本を交換した人が参加して意見を出してくれるとよい。

岡崎教育長：行政色を出すネットワークにしたくない。家庭でも入りやすいがその分広がるのも時間が掛かると思う。

13、その他

学校教育課長：4月6日の教育委員会は、小学校入学式終了になるため昼食弁当を用意してよいか。

高橋議長：昨年同様、昼食を用意する。

14、閉 会 午後12時

上記記録の正確なることを認めここに署名する。

平成29年3月23日

議事録書名人

1 番委員

2 番委員

会議書記

主任主査兼学校教育係長 黒澤敦子